

企画力	試作	量産	多品種 小ロット	短納期	コスト 相談
-----	----	----	-------------	-----	-----------

事業内容と沿革

大学3年生が
いきなり会社を承継

平成3年、青木和幸社長の父である青木和夫氏が創業した。和夫氏は勤務していたユニチカからK社に出向、樹脂成形に携わっており、独立して宇治市内の貸工場から事業をスタートした。徐々に会社の規模を拡大していったが、和夫氏は平成16年、病気でこの世を去った。現社長の青木和幸氏は当時まだ大学3年生。母から会社を継ぐように言われ、「会社をつぶすわけにはいかない」と先のことは考えず社長を継ぐことになった。

それまで会社の仕事に関わったことはなく、ゼロからのスタート。会社とはいえ小規模で、樹脂成形を行えるのは父1人だけだった。機械の動かし方もわからなかったが、父が独立後も取引のあったK社から3カ月間技術指導を受け、試行錯誤を繰り返しながら樹脂成形の仕事をなんとか継続することができた。その後もいくつかのハードルを乗り越えながら仕事量の増加に応じて工場、設備を拡大、従業員も96人まで増えている。

強み

金型づくりに直接関わり、
成形品質を向上

プラスチック製品を量産できることが射出成形の特徴だが、大ロットの量産は海外に移り、国内では小ロットの注文が主流となっている。プラスチック製品の需要はなくなることはないが、国内の成形加工業界は厳しい環境にある。大学生からいきなり射出成形加工企業のトップとなった青木社長は、どのようにして同社を成長軌道に乗せたのか。

当初は成形作業から納品まで一人でやっていたが、注文が増えるにつれて従業員を増やしていった。とはいえ簡単に取引先が増えたわけではない。青木社長は「どんな仕事でも断らない」というスタンスで、新規の仕事を増やした。

ある時、大手電機メーカーの掃除機用にフィルターメッシュをインサート成形した部品をつくる仕事が舞い込んだ。その掃除機が売れて

いたため連日24時間操業で人手をかけて成形作業しなければならなかったが、なんとかやりきった。

継承してすぐの頃は成形メーカーの孫請けとしての受注が多く、支給された金型を用いて成形することがほとんどだった。「射出成形製品の品質はどれだけ良い金型がつくれるかがポイントとなる」という青木社長は、金型設計に極力関われるよう、孫請けから下請けへの脱皮を目指した。一段階上がることで、支給金型ではなく金型づくりから関わるができる。金型メーカーと相談して効率的で高品質の成形が可能な金型をつくることで、ノウハウも蓄積できる。困難な仕事をこなしながら、技術力、ノウハウを積み重ね、顧客の信頼を獲得していった。

さらに工場の移転、拡大を繰り返したことも見逃せない。当初の貸し工場からY社の建物を賃貸から買い取り現本社工場へ移転、スペースは約6倍になった。当初はスペースに見合う仕事量はなかったが、工場を見に来た顧客が「この広さがあれば」と注文を出してくれた。営業も一人で担当する青木社長は「自分を追い込むためにも」と、先行投資で工場の拡大を続け、スペースに応じた仕事を獲得し続けている。

今後の展開

新工場を相次ぎ開設、
統合新拠点構想も

同社はスペース拡大を続け、令和2年、本社近隣地に第2工場を建設した。ちょうど新型コロナ禍と重なったが、計画通りに建設が進み、一時は落ち込んだ注文も回復している。さらに国の事業再構築補助金制度に採択され、医療機器関連などの新分野を開拓するため、令和5年に第3工場を賃借で開設した。新たに成形機も導入し順調に稼働を開始した。

ただ青木社長は「拠点を分散したがゆえの悩み」も抱えている。「各工場に管理者を配置しなければならず、状況把握も大変になる」という。このため第2、第3工場を開設したばかりだが、「近い将来には1カ所に統合したい」と新工場構想を練っている。

新工場の候補地は「現在地からあまり遠くない場所」と宇治市内を希望。同社に働く社員やパートの人たちが移転後も継続して通えることを必須条件とする。同社の成長を支えてきた従業員の雇用を継続して地域貢献を果たすとともに、人手不足問題にも対応する。

株式会社
青木プラス

プラスチック製品の成形加工、金型販売

工場、設備の拡大に伴い、
事業の成長戦略を描く

令和2年に稼働した第2工場

主な事業内容

プラスチック射出成形加工及び、成形品二次加工

主な製品

電機、機械などのプラスチック部品、生活用品



射出成形機



品質管理を徹底するための掲示板



快適に働ける環境を整備（食堂）

だれもが笑いながら仕事ができる会社に

楽しく笑いながら仕事ができる会社を目指しています。だれも嫌な仕事はしたくないはずです。楽しく仕事できれば会社の雰囲気も明るくなります。各人が個性を生かしつつ、皆で工夫し、技術力、人間性を高めて、お客さまに信頼されるモノづくり、会社づくりに励みます。

代表取締役社長
青木 和幸さん

次期社長 募集中です！

住 所	〒611-0041 京都府宇治市横島町千足28番地
T E L	0774-20-6622
F A X	0774-23-7722
創 業	平成3年4月
設 立	平成8年4月
資本金	1,000万円
従業員	96名

<http://www.aoki-plas.co.jp/>
